九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Intensity of Anticoagulation and Clinical Outcomes in Acute Cardioembolic StrokeThe Fukuoka Stroke Registry

中村, 麻子

https://hdl.handle.net/2324/1441104

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

KYUSHU UNIVERSITY

論文審査の結果の要旨

心原性脳塞栓症は、超高齢社会の現在増加傾向にあり、重篤な結果を招く疾患であり、その予防と治療はきわめて大切であります。しかし、ワルファリンによる抗凝固療法は，心原性脳塞栓症発症予防に有効であるが，心原性脳塞栓症発症時の抗凝固療法の強度と臨床転帰の関係については明らかでありませんでした。

申請者らは、福岡県の多施設共同脳卒中データベース研究(Fukuoka Stroke Registry; FSR)に登録された患者の中から，抗凝固療法を受けていながら心原性脳塞栓症を発症した 602 例を抽出し、心原性脳塞栓症発症時の入院時プロトロンビン時間国際標準比(PT-INR)の強度と臨床転帰の関係について検討しました。入院時 PT-INR 値が高いほど，神経障害は軽度であり，退院時機能予後は良好であることを見いだしました。

以上の成績は、Stroke 誌に掲載され、この方面の研究に大きなインパクトを与えた意義ある成果であると考えられます。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行い、ほとんど満足すべき回答を得ました。

以上のことから、調査委員合議の結果、試験は合格であり、審査員 3 名とも表彰に値すると判断致しました。